



ビブリオバトル

バトルと言ってもゲームの話ではありません。でも前号の内容と近からず遠からずかもしれませんね。

ビブリオバトル公式ルール

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

たったこれだけのルールで、遊べば読書がスポーツに変わる！本を読むのが楽しくなる！いろんな本に巡り会えて、どんどん世界が広がる！

また、紹介の際にはシンプルに本とカウントダウンタイマーだけ。あとは、ライブでアドリブで本について語ります。レジュメは準備せず、パワーポイントなども利用せず、生の語りで紹介しましょう～！

そんなビブリオバトルを楽しみませんか！？ぜひ皆さんも、友人と、同僚と、仲間達と一緒にビブリオバトルを開いて遊んでみましょう！

【以上、公式ウェブサイトより】

学校関係者として興味が引かれます。知的好奇心がくすぐられます。さっそくやってみようと思ってしまいます。

でもよくよく考えてみると、「本の紹介」、つまり5分間のプレゼンや2～3分のディスカッションは、大人の我々でもけっこう難しいのかもしれない。世界のワ●ベのようなキレのあるプレゼンなんて到底無理。小学生だとなおさらです。どんなことでも言えますが、形だけ取り入れてもうまくいくはずがありません。



これは、1学期に行われた5年の授業の様子です。「この本、みんなにプレゼンしたい～広がる、つながる、読書の世界～」という学習でした。この授業のように、用意周到・準備万端で取り組まないと、言い換えれば担任が

【裏面に続く】



戦略的に進めないと、到底子どもたちに「学ぶ喜び、知る楽しさ」を体感させることはできないでしょう。このような過程を経てこそ、クラスでビブリオバトルが成立すると思います。

本校の研究では、今年は「読む・書く」活動を大切にして進めています。他者に伝える方法として、音声言語である「話す」力はもちろん、文字言語の「書く」力を重視しているのです。この5年生の授業でも、事前に書いておくことで友達の前で

うまくプレゼンすることができたのでしよう。

私（わたくし）自身、音声言語の数倍の時間とエネルギーを費やす文字言語であっても、これを使って伝えていかなければと常々思っています。学校便りを出しているのもその理由のひとつ。自身の思いや願いや考えを、文字をもってお家の方に伝えることは、校長の責務のひとつと考えていますので。



さて、わが子はさっぱり読書をしない。

とにかく文字が嫌い。だから本と同じような物語や名作を、ドラマやアニメで観せたらいいのではと思う方もいらっしゃるかもしれませんが。結論から言うと×です。勝手に視覚・聴覚に入って脳に届くものと、能動的に目で文字を追って頭を使うこととは、まったく別物だからです。要はそこに自分の意志が働いているか否か、想像力と創造力が働いているか否かがツボでしょう。お子様が大人になったとき、今ある職業のいくつかは存在していないと聞きました。そんなとき、自立して生きていくために発揮するのが想像力と創造力かもしれません。

お題目を唱えるように「本を読みなさい」と言うのではなく、読書環境を整えることが大切。みなさんのお家の読書環境はいかがでしょう。お子様がゲームに飽きて家でゴロゴロしているとき、ふと手を伸ばせばそこに本があればそれでOK。

5年つながりでもうひとつ。最近、私が読んだ本で、いたく気に入ったものがこれ。写真集でもhow-to本でもありません。大人が真剣に真摯に仕事に打ち込んだ姿を描いた話で、自然相手に試行錯誤するその過程は、読んでいて納得し微笑ましくもあり、感動すら覚えました。マニアックな本で申し訳ないですが…。

最後にこんな言葉を紹介します。「趣味は？と尋ねられて読書と答えてはいけない。なぜなら、読書は人として生きていくための必要不可欠なものだから」

No Image